

# 40歳過ぎたら、眼底検査を受けるのだ！



川口市立医療センター

眼科 すえよし 末吉 しんいち 真一

このフレーズをアニメキャラクターが呼び掛けているCMやポスターを、ご自宅や街角でご覧になったかたもいらっしゃるのではないのでしょうか。今年度、日本眼科医会では、眼底検査の大切さを啓発するキャンペーンを行っています。

眼底検査とは、倒像鏡という眼の内部を診察する器具や、眼の中を撮影する眼底カメラを用いて瞳孔の奥にある眼底の網膜、血管、視神経などを調べる検査です。検査時にまぶしさを感じることはありますが、痛みはありません。

目の病気の中には、自覚症状がないまま進行してしまうものもあります。日本人の失明原因の第1位である緑内障はその代表的なものです。緑内障は初期から中期まではほとんど自覚症状がありません。そのため異変に気付いた頃にはかなり進行した晩期の状態となっています。ただし、早期に発見できれば進行を防ぐことができる病気になってきています。

また、日本人の失明原因の第2位である糖尿病網膜症も初期から中期までは自覚症状はありません。見えづらいつと感じる頃には、かなり悪化しており、視力の回復が難しくなります。

眼底検査は、さまざまな眼の病気の早期発見に有効であり、適切な治療につなげることができます。病気の進行を食い止め失明を防ぐため、特に目に違和感などがなくとも、定期的な検査をお勧めします。

人間が外界から受け取る情報の80%は視覚から得ているといわれています。冒頭でお話しした啓発キャンペーンCMでは、最後にこう呼び掛けています。

「これからも、楽しい世界を見続けるのだ！」